

看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向
—2001年から2009年に発表された研究論文の分析を通して—

金城 忍

資料

看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向 —2001年から2009年に発表された研究論文の分析を通して—

金城 忍¹⁾

要 約

本研究の目的は、看護基礎教育における看護技術教育の研究の動向を明らかにし、看護技術教育における研究遂行上の示唆を得ることである。医学中央雑誌Webにて、「看護基礎教育」「看護技術」「看護技術教育」「教育方法」をキーワードに、2001年から2009年に発表された研究論文を検索した。次いでそれらキーワードを掛け合わせて検索し、看護基礎教育における看護技術教育に関する64件の原著論文を分析対象とした。

分析の結果、分析対象を掲載した文献は紀要が最も多く、研究者の所属も大学・短期大学が73.4%であった。このことは1992年以降、看護系大学が急増したことと関連していると考えられた。研究内容として「看護技術演習における授業評価と課題」「看護基礎教育における看護技術修得状況と看護技術教育の課題」「看護技術教育における学生の学びや教育内容、教育方法の検討」「教育機関と臨床における看護技術教育の課題」「看護技術教育における技術教育の実態と課題」「看護技術演習に関する研究の動向」の6つのコアカテゴリに分類された。以上のことから、看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向として、看護技術修得を促す効果的な技術教育についての課題を明確にしていることが明らかとなった。

キーワード：看護基礎教育，看護技術教育，国内文献

I. 緒言

文部科学省は2002年に「大学における看護実践能力育成の充実に向けて」¹⁾を報告した。その報告書では、看護学の教育内容のコアである技術学習項目が明記され、卒業時目標とした看護実践能力の構成と卒業時到達度について述べている。翌年の2003年には厚生労働省が、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」²⁾を報告した。その報告書は、臨地実習において学生が行う看護技術についての基本的な考え方や、臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術として、2002年の報告書¹⁾に示された看護技術項目に追加・修正を加えた82項目の看護技術の水準を具体的に示した。その後2005年に小山³⁾は、看護基礎教育卒業時に全ての学生が習得しておく必要のある看護技術として142項目の技術を明らかにし、各々の技術の到達目標を示した。小山が明らかにした看護技術項目と到達目標は、2007年に厚生労働省が報告した「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」⁴⁾や、2008年の厚労省医政局課長通知の「助産師、看護師教育の技術項目の卒業時の到達度について」⁵⁾などに活用されている。

このように看護技術教育に関連して、文部科学省や厚

生労働省などでは討議が盛んに行われている。穴沢ら⁶⁾は、「臨地実習における学生の看護技術の習得は患者に安全・安楽な技術を提供することと一体である。そのため、学内における看護技術の十分な学習が必須であり、臨地実習での実践を前提とした看護技術演習がますます重要になると考える」と看護基礎教育における看護技術教育の重要性を述べている。しかし医療の高度化や在院日数の短縮化、医療安全に対する国民の意識の高まりなど国民のニーズの変化を背景に、臨床で必要とされる看護技術と看護基礎教育にて習得する看護技術に乖離が生じ、それが新人看護職員の離職の一因との指摘もされている⁷⁾。そこで看護技術教育の今後の発展を見据えていくためには、看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向を明らかにする必要があると考えた。

看護基礎教育における看護技術教育に関して穴沢ら⁶⁾は、1991年から2002年に発表された文献から、基礎看護技術演習に関する研究の動向について報告している。また鈴木ら⁸⁾は、1991年から1992年の4つの主要な学会誌に発表された技術教育に関する研究を対象に、基礎看護学における研究の現状を明らかにした。しかし2002年以降の看護技術教育に関する研究の特徴について報告されたものはみられなかった。そこで今回看護基礎教育における看護技術に関する研究の動向について分析を試み

1) 沖縄県立看護大学

た。

Ⅱ. 研究目的

我が国の看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向を明らかにし、看護技術教育における研究遂行上の示唆を得る。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象

2001年から2009年に発表された看護基礎教育における看護技術教育に関する研究論文

2. 研究方法

1) 分析方法

(1) 医学中央雑誌Web(Vre.4)を用いて、2001年～2009年の発表研究論文で、「看護基礎教育」、「看護技術」、「看護技術教育」、「教育方法」をキーワードとして検索し、それぞれの研究論文数を把握する。

(2) 「看護基礎教育」と「看護技術教育」の2つのキーワードを含む研究論文と、「看護基礎教育」、「看護技術」、「教育方法」の3つのキーワードを含む研究論文を取り出す。

(3) (2)で得られた研究論文の種類が「原著論文」に分類されている研究論文を分析対象とし、分析対象の発表年、掲載文献の種類、研究者（第一著者）の所属機関、看護技術項目、研究の種類、研究デザイン、研究対象者、データの種類、データ分析方法、研究倫理上の問題、につ

いて記述統計値を算出する。

(3) 分析対象の研究内容を要約し、それらを表現する研究内容コードを作成する。

(4) 研究内容コードの共通性、相異性を比較検討し、研究内容カテゴリを導き出す。

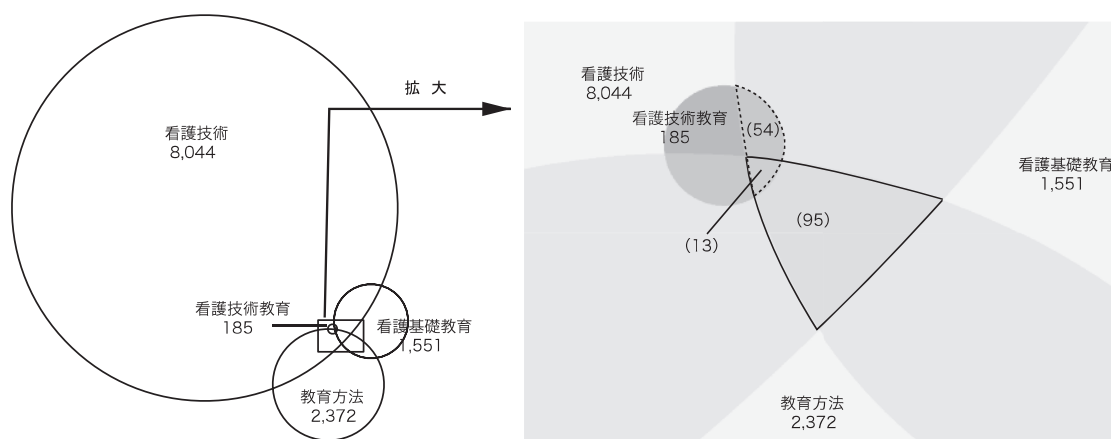
(5) (4)で得られた研究内容カテゴリの共通性、相異性を比較検討し、研究内容についてのコアカテゴリを明らかにし、看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向について考察する。

Ⅳ. 分析結果

1. 看護基礎教育、看護技術、教育方法の中での看護技術教育に関する研究について

2010年2月現在、「看護基礎教育」、「看護技術」、「看護技術教育」、「教育方法」をキーワードとしている研究論文数は、「看護基礎教育」1,551件、「看護技術」8,044件、「看護技術教育」185件、そして「教育方法」2,372件であった。

続いてそれぞれのキーワードを掛け合わせた結果、「看護基礎教育」、「看護技術教育」の2つのキーワードを含む研究論文は54件、「看護基礎教育」、「看護技術」、「教育方法」の3つのキーワードを含む研究論文は95件あった。なお「看護基礎教育」、「看護技術教育」、「教育方法」の3つのキーワードを含む研究論文は13件あった。各キーワードにて検索された研究論文数を図1に示す。「看護基礎教育」、「看護技術教育」の2つのキーワードを含む研究論文と、「看護基礎教育」、「看護技術」、「教



注) ()内に示された数値は、各キーワードを掛け合わせて検索された研究論文数を表す。数値と掛け合わせたキーワードを以下に示す。

(54):「看護基礎教育」、「看護技術教育」

(95):「看護基礎教育」、「看護技術」、「教育方法」

(13):「看護基礎教育」、「看護技術教育」、「教育方法」

図1 「看護基礎教育」、看護技術」、「看護技術教育」、「教育方法」をキーワードに検索された研究論文数

育方法」の3つのキーワードを含む研究論文の中から、論文の種類が「原著論文」に分類されている64件を分析対象とした。

2. 掲載文献の種類

分析対象の掲載文献の種類は、大学・短期大学・専修学校の紀要が28件（43.8%）と最も多くみられた。続いて学会誌と学術集会誌が13件（20.3%）、商業雑誌が6件（9.4%）であった。

3. 研究者の所属

第一著者の所属機関は、大学が34名（53.1%）と最も多く、専修学校16名（25.0%）、短期大学13名（20.3%）、大学校1名（1.6%）と続いていた。分析対象の発表年度、研究者の所属別の件数を図2に示す。

4. 研究の種類および研究デザイン

分析対象の64件は、量的研究31件（48.4%）、質的研究17件（26.6%）、量的研究と質的研究を併用したもの16件（25.0%）であった。

5. 研究対象とデータの内容

分析対象における研究対象者は、学生が46件（71.8%）と最も多く、そのうち看護教員と看護師も含むものが2件あった。看護教員を対象としたものは7件（10.9%）あり、そのうち看護師も対象としたものが2件、テキストも対象としたものが1件あった。

分析に用いられたデータの種類の総数は67件で、その内訳は自作の質問紙44件（65.7%）が最も多く、次いで学生に課したレポート7件（10.4%）であった。

看護技術項目については、技術修得状況を把握するために看護技術全般を取り扱った研究が19件と最も多かった。個別の看護技術については、ベッドメイキング技術、バイタルサイン測定技術、食生活の援助技術、採血技術、静脈内注射技術について検討した研究論文がそれぞれ2件あった。また寝衣交換技術、運動—休息の援助技術、全身清拭、沐浴技術、足浴、口腔内清潔法、経管栄養法、浣腸、気管内吸引、皮下注射技術について検討した研究論文はそれぞれ1件あった。

6. データ分析方法

64件のうち、量的研究31件、量的研究と質的研究の併用は16件あり、単純集計で検定未実施の研究は25件（53.2%）、検定法を用いた研究は22件（46.8%）であった。

7. 倫理的問題について

分析対象のうち、先行研究やカリキュラムを研究対象とした研究論文は6件みられ、その他58件は、倫理的配慮を必要とする研究論文であった。そのうち所属機関の倫理審査の承認を得ていたものは7件であった。その7件の発表年は、2006年に3件、2008年に2件、そして2009年に2件であった。一方、倫理的配慮に関して記入していないのが6件あった。その他の45件については、

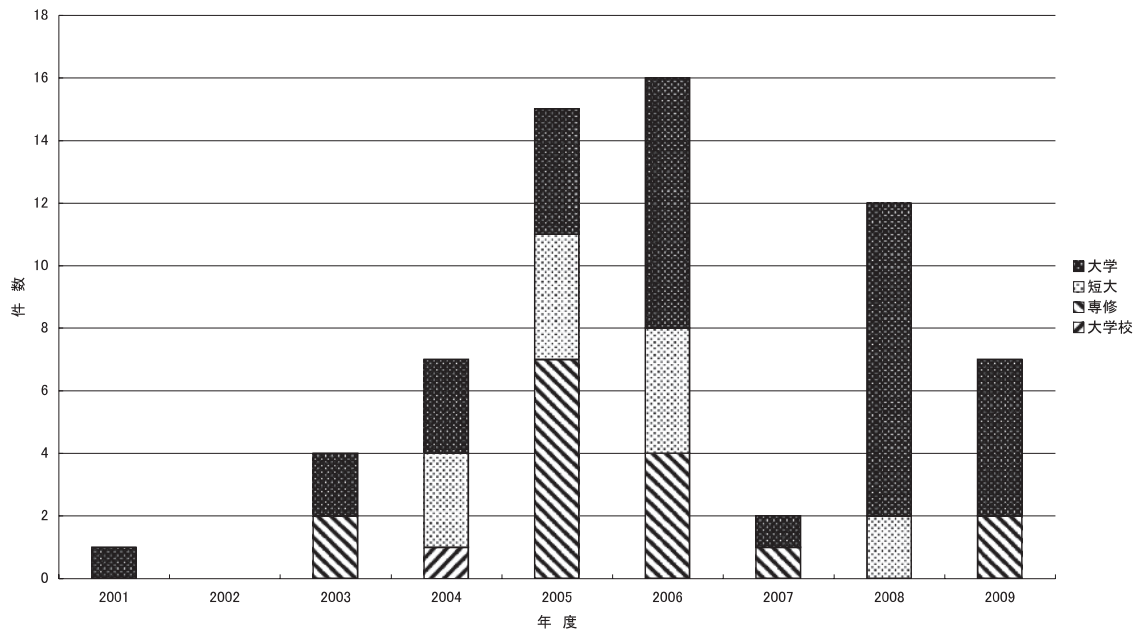


図2 論文発表年度、研究者所属別の原著論文件数

研究対象者に対して文書を用いながら説明したものが6件、書面でのみ説明したものが10件、口頭で説明を行ったものが16件であった。しかし説明内容は記載されているものの、どのように説明したのか不明なものが13件あった。

8. 研究内容

1) 研究内容の分類 (表1)

分析対象となった研究論文を精読し、研究内容コードを導き出した。次いで研究内容の共通性と相異性に注目し、17の研究内容カテゴリが導き出された。さらに意味内容を検討した結果、6のコアカテゴリが抽出された。以下、6のコアカテゴリごとに研究内容を示す。

(1) 看護技術演習における授業評価と課題 (28件, 43.8%)

このコアカテゴリは4つの研究内容カテゴリから構成された。その4つの研究内容カテゴリは、「看護技術演習における授業展開の再構成による学習効果」、「看護技術演習における授業展開の評価」、「看護技術演習におけるSP活用の効果と課題」、「看護技術演習における演習プログラムの評価と課題」であった。

例えば、バイタルサイン測定に関して、意図的に教育介入した授業とそうではない授業の比較から、教育介入した場合の教育成果について明らかにした研究論文があった。またOSCE実施時に、ボランティアによる模擬患者と現任看護師による模擬患者の評価傾向を比較し、模擬患者の活用方法について検討した研究論文もみられた。

(2) 看護基礎教育における看護技術修得状況と看護技術教育の課題 (15件, 23.4%)

このコアカテゴリは3つの研究内容カテゴリから構成された。その3つの研究内容カテゴリは、「臨地実習における学生の看護技術経験状況と看護技術教育の課題」、「学生の自己評価から見た卒業時における看護技術の修得状況と看護技術教育の課題」、「臨地実習における学生の体験と看護技術の課題」であった。

このコアカテゴリでは、臨地実習での看護技術の修得状況の実態を把握し、学内の授業・演習状況と比較、分析を行い、今後の課題を明らかにした研究論文があった。また看護基礎教育の充実に関する検討会報告書の「看護教育の技術項目と卒業時の到達目標」を元に調査用紙を作成し、全ての実習を終了した4年次の学生を対象に学生の看護技術の修得状況を明らかにした研究論文がみられた。

(3) 看護技術教育における学生の学びや教育内容、教育

方法の検討 (10件, 15.6%)

このコアカテゴリは4つの研究内容カテゴリから構成された。その4つの研究内容カテゴリは、「看護技術教育における授業内容や看護技術の見直しによる教育内容と授業方法の検討」、「看護技術教育における視聴覚教材の活用状況や効果と今後の課題」、「身体侵襲を及ぼす看護技術演習における学生の学びと教育方法の課題」、「看護技術演習における技術教育の記憶と自己評価への影響」であった。

ここでのコアカテゴリでは、学内演習の授業内容を見直し、教育内容の精選および授業方法の改善と今後の課題について明らかにした研究論文がみられた。また基礎看護技術自己学習でのビデオ教材の効果と改善点を学生へのアンケートから明らかにした研究論文がみられた。

(4) 教育機関と臨床における看護技術教育の課題 (7件, 10.9%)

このコアカテゴリは4つの研究内容カテゴリから構成された。その4つの研究内容カテゴリは、「看護技術教育における教育機関と臨床での看護技術習得の到達目標の相違と看護技術教育の課題」、「看護技術教育における教育機関と臨床の看護技術教育の実態」、「臨地実習における看護師の看護技術指導状況と課題」、「臨床で重要と考える看護技術に関する卒業生からの意見、要望と教育方法の検討」であった。

例えば、教育と臨床の乖離が予測される看護技術の実態調査を行い、学内演習での教育方法の改善を検討した研究論文がみられた。また看護師養成機関と実習病院での看護技術教育の実態調査を行った研究論文もみられた。

(5) 看護技術教育における技術教育の実態と課題 (3件, 4.7%)

このコアカテゴリにおける研究内容カテゴリは、「看護技術教育における技術教育の実態とサブテキストの内容」であった。

ここでは、皮下注射について、基礎看護学に関するサブテキストの記述内容を分析し、安全で確実な皮下注射の注射部位と針の刺入角度と長さを考察した研究論文がみられた。

(6) 看護技術演習に関する研究の動向 (1件, 1.6%)

このコアカテゴリにおける研究内容カテゴリは、「基礎看護教育における基礎看護技術演習に関する研究の動向」であった。これは1991年から2002年に発表された看護技術演習に関する研究論文を概観した研究であった。

表1 分析対象の研究内容カテゴリ

発表年	研究内容コード	研究内容カテゴリ	コアカテゴリ		
2001	学生の自己評価から見た診療場面の援助技術修得を促す教育方法の検討	看護技術演習における授業展開の再編成による学習効果	(1) 看護技術演習における授業評価と課題 (28件, 43.8%)		
2003	経管栄養の演習においてテクニカルポイントを導入した演習と導入しない演習の比較から、テクニカルポイント導入の効果				
2003	足浴の技術学習における技術の根拠についての実験検証的方法の効果				
2005	静脈採血の技術演習の困難要因を改善した演習実施内容の検討				
2005	演習計画用紙の導入によって得られた学習成果				
2005	バイタルサイン測定に関して意識的に教育介入した授業とそうでない授業の比較から教育介入した場合の教育成果				
2005	バイタルサイン測定に関して意識的に教育介入した授業からの今後の教育課題				
2006	基礎看護技術教育で「学習者主体、形成的評価、実践に根ざす」という特徴を押さえた授業効果の検討				
2006	看護技術演習に臨地実習で受け持つ機会が多い患者を想定した事例導入の実習課題と学習効果				
2007	メタ認知技能を高める「ベッドメイキング」技術習得のための教育方法の検討				
2007	看護実践能力育成に対する実習前演習の効果				
2008	基礎看護技術演習での学生の主体的な参画型演習における倫理的態度への効果と技術演習における教育方法の検討				
2008	基礎看護技術を学習する複数科目に一貫した事例を用いることの学習効果				
2009	看護基礎教育の教員と臨床看護師との共同授業についての学習効果				
2003	日常生活援助技術における学生の自己評価から見た技術チェックの教育的効果	看護技術演習における授業展開の評価			
2005	OSCE導入に当たり、限られた時間で技術を習得させるために、技術の一部を試験することの有用性について				
2005	全身清拭技術において教員のデモを通して得られた「快」の感覚体験および技術教育における教員の実践力を提供することの意義				
2006	基礎看護技術にアクティブラーニングとグループワークを導入することの学習効果と生活援助技術における教材のあり方の検討				
2008	入学直後学生に臨床に即したシナリオを用いたPBLの実施シナリオからの学習項目の抽出状況と学びに関する学生の捉え方の変化				
2005	SPへの援助を経験した学生と経験していない学生との学びの違いに対するSP活用の効果と課題			看護技術演習におけるSP活用の効果と課題	
2005	SP技術演習で体験した内容から技術教育方法としての効果の検証				
2006	OSCE実施時、ボランティアによるSPと現任看護師によるSPの評価傾向から、SPの活用方法についての検討				
2006	看護基礎技術演習にSPを導入することに対する学生の評価				
2008	浣腸の援助技術について講義のみの学びと、教員のデモストにSPを導入し観察学習を取り入れた演習後の学びの比較検討	看護技術演習における演習プログラムの評価と課題			
2007	基礎看護技術の学内演習におけるリーダー学生を中心としてグループ学習を用いた技術習得における学生の困難さと対処行動				
2008	摂食・嚥下リハビリテーション看護教育における学生の自己評価から見た演習プログラムの評価と学生の知識・技術習得に向けての課題				
2008	基礎看護技術演習における自己学習課題、個別指導の状況と自己学習プログラムに対する理解度と視聴覚教材に対する評価				
2009	「沐浴」技術習得におけるグループ代表学生を中心としたグループ学習における学習方法の効果				
2004	看護技術到達度の現状把握と講義・学内演習・学内実習と臨地実習の一貫した教育の整合性と統合性および臨地実習にて実施する看護技術の水準の検討	臨地実習における学生の看護技術経験状況と看護技術教育の課題	(2) 看護基礎教育における看護技術修得状況と看護技術教育の課題 (15件, 23.4%)		
2005	成人看護学実習における看護技術の修得状況の実態と学内の授業・演習状況から見た次年度に向けての看護技術教育の課題				
2005	臨地実習における看護技術の実施経験状況から見た看護基礎教育の看護技術教育の課題				
2006	助産師教育課程における専修学校・看護系短期大学卒業生と看護系大学卒業生の看護技術の経時的修得状況の変化と今後の技術教育課題				
2006	卒業期の臨地実習における看護技術の経験・見学率の変化から実施率の向上につながる演習指導内容の妥当性				
2008	基礎看護学実習における学生の看護技術実施時の困難とその対処方法および看護技術習得をめざした教育方法の検討				

金城忍：看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向

2008	看護基礎教育における母性の基本的看護技術の実施状況の年次比較から見た教育評価		
2008	看護系大学生の臨地実習における看護技術経験状況と自信の程度および教育的介入のあり方についての検討		
2008	成人看護学実習における学生の看護技術経験の実態と学内及び実習での技術教育のあり方の検討		
2009	成人看護学・老年看護学実習における3年間の看護技術経験率の変化から見た看護技術習得に向けた効果的な教育方法		
2009	成人看護学実習での看護技術の経験の実態と、成人看護学領域としての専門看護技術実習での指導内容・方法の検討		
2006	日本と中国(上海)の3年課程における看護技術到達度の自己評価の比較および看護技術教育の検討	学生の自己評価から見た卒業時における看護技術の修得状況と看護技術教育の課題	
2006	卒業時における看護技術の修得状況から見出された到達目標達成のための技術教育のあり方と新人看護職員教育プログラム構築への示唆		
2009	学生の自己評価から見た卒業時における基礎看護技術の修得状況と看護技術教育の課題		
2005	実習での「ヒヤリ・ハット」レポートから医療安全教育を志向した基礎看護技術教育の課題	臨地実習における学生の体験と看護技術教育の課題	
2004	看護技術教育の授業内容の検討から見出された教育内容と授業方法の検討	看護技術教育における授業内容や看護技術の見直しによる教育内容と授業方法の検討	(3) 看護技術教育における学生の学びや教育内容、教育方法の検討(10件, 15.6%)
2005	本学の技術教育に関する実態と今後の看護技術教育の展望		
2006	先行研究の整理・記述を通して基礎看護学領域での技術教育の実際と学生の技術修得状況および看護技術教育のあり方の検討		
2008	本学の基礎看護教育における看護技術の見直しと看護実践能力の向上につながる基本的な基礎看護技術の教育内容の妥当性の検証		
2006	基礎看護技術演習の自主学習におけるビデオ学習の効果と改善点	看護技術教育における視聴覚教材の活用状況や効果と今後の課題	
2006	看護技術教材としてのe-learning導入に対する学生の評価と今後の課題		
2006	基礎看護技術教育におけるWebCT教材の活用状況		
2004	基礎看護領域での学生の静脈内注射技術に関する理解度と教育方法のあり方	身体侵襲を及ぼす看護技術演習における学生の学びと教育方法の課題	
2009	学生同士による採血技術の体験学習からの学びと教育方法の課題		
2004	看護基礎教育にて学んだ気管内吸引技術教育の卒業後の記憶と同技術への自己評価に及ぼす影響	看護技術演習における技術教育の記憶と自己評価への影響	
2005	教育と臨床の乖離が予測される看護技術の実態調査と基礎看護技術教育改善の検討	看護技術教育における教育機関と臨床での看護技術習得の到達目標の相違と看護技術教育の課題	(4) 教育機関と臨床における看護技術教育の課題(7件, 10.9%)
2005	静脈注射技術における学校と臨床の「期待する教育レベル」と「1人でできる到達時期」についての認識および看護基礎教育における静脈注射技術教育プログラムの検討		
2008	看護基礎教育卒業時の看護技術の到達目標に関する教育者と看護実践者の意見の相違		
2004	A県における看護師養成機関と主たる実習病院での看護技術教育の実態および看護基礎教育の技術教育のあり方	看護技術教育における教育機関と臨床の看護技術教育の実態	
2003	臨地実習における実習指導看護師の基礎看護技術に関する指導の状況と実習体制整備についての課題	臨地実習における看護師の看護技術指導状況と課題	
2004	看護基礎教育にて学習する看護技術において、卒業生が重要と感じる技術項目の学習と看護技術教育の課題	臨床で重要と考える看護技術に関する卒業生からの意見、要望と教育方法の検討	
2005	看護基礎教育における看護技術教育に対する卒業生の意見・要望からの看護技術教育の教育方法の検討		
2006	看護基礎教育における「ベッドメイキング」技術に関する授業内容の実態	看護技術教育における技術教育の実態とサブテキストの内容	(5) 看護技術教育における技術教育の実態と課題(3件, 4.7%)
2007	看護基礎教育における看護記録に関する教育の現状と課題		
2009	基礎看護技術教育における皮下注射技術に関するサブテキストに記述された内容の検討		
2004	看護基礎教育における基礎看護技術演習に関する研究の動向	看護基礎教育における基礎看護技術演習に関する研究の動向	(6) 看護技術演習に関する研究の動向(1件, 1.6%)

V. 考察

1. 看護技術教育に関する研究の動向

1991年から2002年に発表された文献を対象とした穴沢ら⁶⁾の報告では、研究者の所属機関は短期大学が最も多く51.9%を占め、次いで大学が28.6%であった。しかし、2001年から2009年までに発表された分析対象の研究論文を分析した今回の研究では、大学が最も多かった。これは1992年の「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」によって、看護系大学が急増し、そこに所属する教員の研究論文が増加したと考えられる。

研究の種類とデザインについて検討すると、本研究結果では量的研究48.4%、質的研究26.6%、量的・質的の併用25.0%であり穴沢ら⁶⁾の報告と類似していた。しかし一方鈴木ら⁸⁾や野本ら⁹⁾の報告では、量的研究が半数を占めていた。分析対象が異なるため単純に比較することはできないが、先行研究の発表年度を重ねてみると、今後、質的研究が増加していくと考えられる。

分析対象とした研究論文において、具体的な看護技術について検討した研究論文は64件中20件で、そのうち技術修得状況を把握するために看護技術全般を取り扱った研究論文は19件であった。その19件の発表年をみると、2001年に1件、2003年から2005年はそれぞれ2件、2006年は4件、2008年は5件、2009年は3件である。これらの研究論文では文部科学省、厚生労働省などの報告書を参考に看護技術修得に関するスケールを作成し、学生の技術修得到達度を把握している研究論文であったことから、今後、技術修得状況を把握するための看護技術全般を取り扱った研究が進展すると予測される。

研究倫理に関しては、2004年に日本看護協会が「看護研究における倫理指針」¹⁰⁾を発表している。本研究の分析対象となった研究論文の中で2004年以降の研究論文は59件であったが、所属機関の倫理審査の承認を得ているものは7件しかなかった。このことから、本研究の分析対象となった研究論文では倫理審査委員会の承認を得ている研究論文はわずかであることが判明した。しかし今後倫理審査承認を得た研究報告が増えていくことが必要であると考えた。

2. 看護技術教育に関する研究の内容

看護技術教育に関する研究の内容を分析した結果、6つのコアカテゴリに分類された。この6つのコアカテゴリのうち、「(1) 看護技術演習における授業評価と課題」、「(2) 看護基礎教育における看護技術修得状況と看護技術教育の課題」、「(3) 看護技術教育における学生の学びや教育内容、教育方法の検討」の3コアカテゴリは、看護

基礎教育における看護技術教育の教育内容や教育方法に焦点を当てている研究であり、分析対象研究論文の82.8%を占めていた。穴沢ら⁶⁾の報告では、6つのカテゴリに分類され、そのうち「I. 看護技術教育における教授方略および教具活用による成果 (38件, 43.7%)」、「II. 看護技術学習における学生の技術修得状況とそれに影響する要因 (17件, 19.6%)」が上位を占めていた。このことから、2001年から2009年に発表された研究論文でも1991年から2002年に発表された研究論文と同様の研究内容が実施されていることが同われた。また本研究での分析対象にも見られたものと同様に、穴沢らの報告にも、模擬患者活用に関する研究や視聴覚教材の活用など新たな教授法に関する研究もなされていた。このことから今後も学生の看護技術修得を促す教授学習方法の検討が行われていくと考えられた。

VI. 結論

1. 分析対象となった64件の掲載文献は紀要が43.8%を占め、研究者の所属も大学・短期大学を合わせると73.4%であった。
2. 分析対象の研究の種類は量的研究が48.4%、質的研究が26.6%であった。先行研究の報告を踏まえると、今後質的研究が増加していくことが考えられた。
3. 学生を研究対象とした研究が71.8%と最も多くみられた。しかし倫理的配慮を必要とする研究論文は58件みられるも、倫理審査委員会の承認を得た研究論文は7件のみであった。
4. 64件の研究論文の研究内容を要約した結果、「看護技術演習における授業評価と課題」「看護基礎教育における看護技術修得状況と看護技術教育の課題」「看護技術教育における学生の学びや教育内容、教育方法の検討」「教育機関と臨床における看護技術教育の課題」「看護技術教育における技術教育の実態と課題」「看護技術演習に関する研究の動向」の6つのコアカテゴリに分類された。

本研究の限界

研究対象を医中誌Webからの研究論文抽出であることから、キーワード検索時に本研究目的に合致する研究論文が検索されなかった可能性がある。また内容的に原著論文に相応しない研究論文も分析対象としたことは本研究の限界といえる。今後、検索から漏れないように検索方法を吟味し、今後の研究動向をみていく必要がある。

引用文献

- 1) 看護学教育の在り方に関する検討会報告（2002）：大学における看護実践能力育成の充実に向けて，文部科学省.
- 2) 厚生労働省医政局看護課（2003）：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書，厚生労働省.
- 3) 小山真理子（2005）：看護基礎教育における看護技術の教育の充実に関する研究－看護基礎教育卒業時の到達目標－，厚生省科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）.
- 4) 厚生労働省医政局看護課（2007）：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書，厚生労働省.
- 5) 厚生労働省医政局看護課長通知（2008）：「助産師，看護師教育の技術項目の卒業時の到達度」について，厚生労働省.
- 6) 穴沢小百合，松山友子（2004）：わが国の看護基礎教育課程における基礎看護技術演習に関する研究の動向 1991～2002年に発表された文献の分析，国立看護大学校研究紀要，3（1），54-64.
- 7) 厚生労働省医政局看護課（2009）：新人看護看護職員研修に関する検討会 中間まとめ，厚生労働省.
- 8) 鈴木純恵，舟島なをみ，杉森みど里，安齋由貴子（1994）：わが国の学会抄録にみる基礎看護技術教育の研究現状の分析－研究デザイン，研究内容に焦点を当てて－，自治医科大学看護短期大学紀要，3，15-27.
- 9) 野本百合子，鈴木純恵，小川妙子（1995）：1989～1993年におけるわが国の基礎看護学教育に関する研究の動向と特徴－研究方法と研究内容に焦点をあてて－，看護教育学研究，4（1），1-17.
- 10) 日本看護協会（2004）：看護研究における倫理指針.